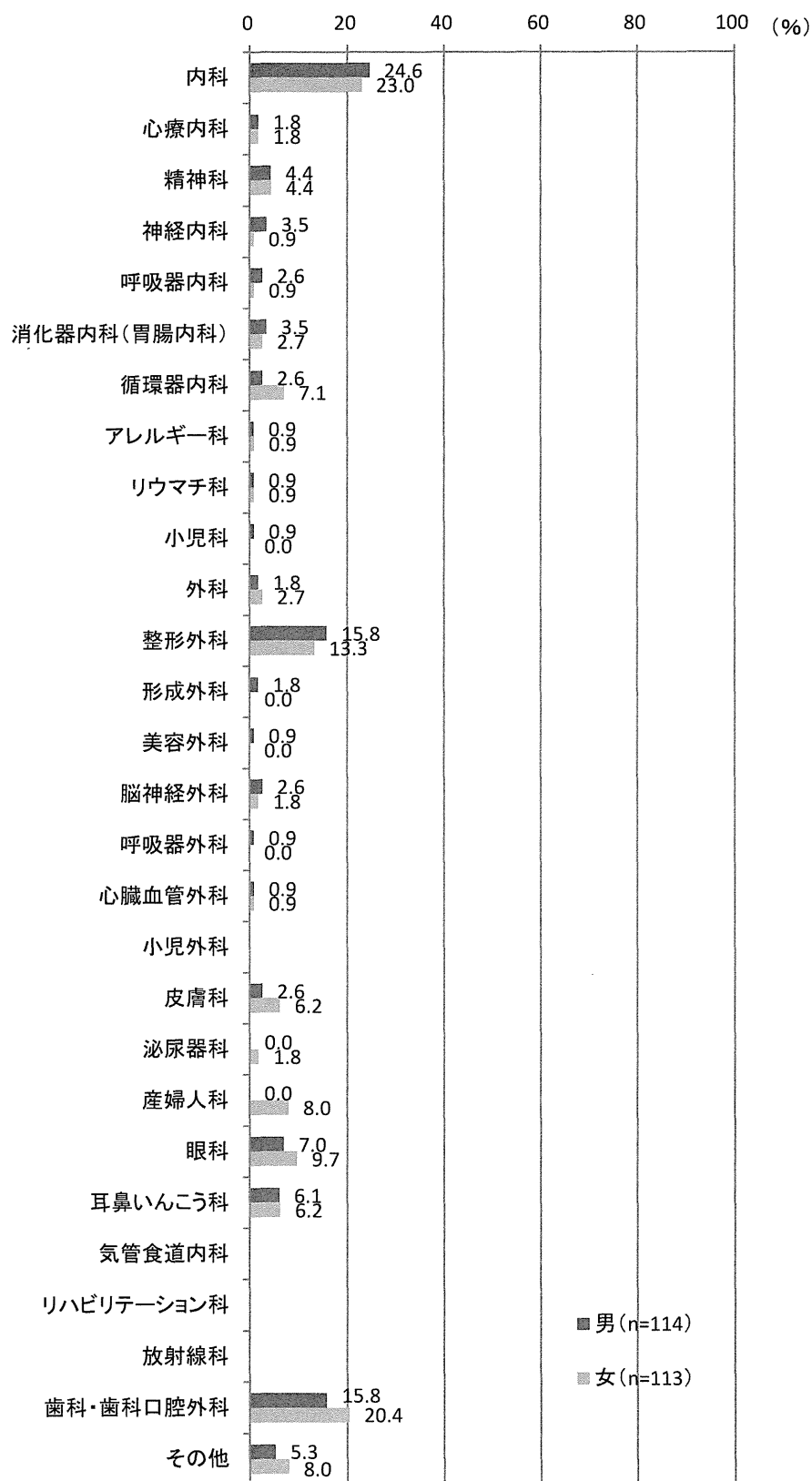
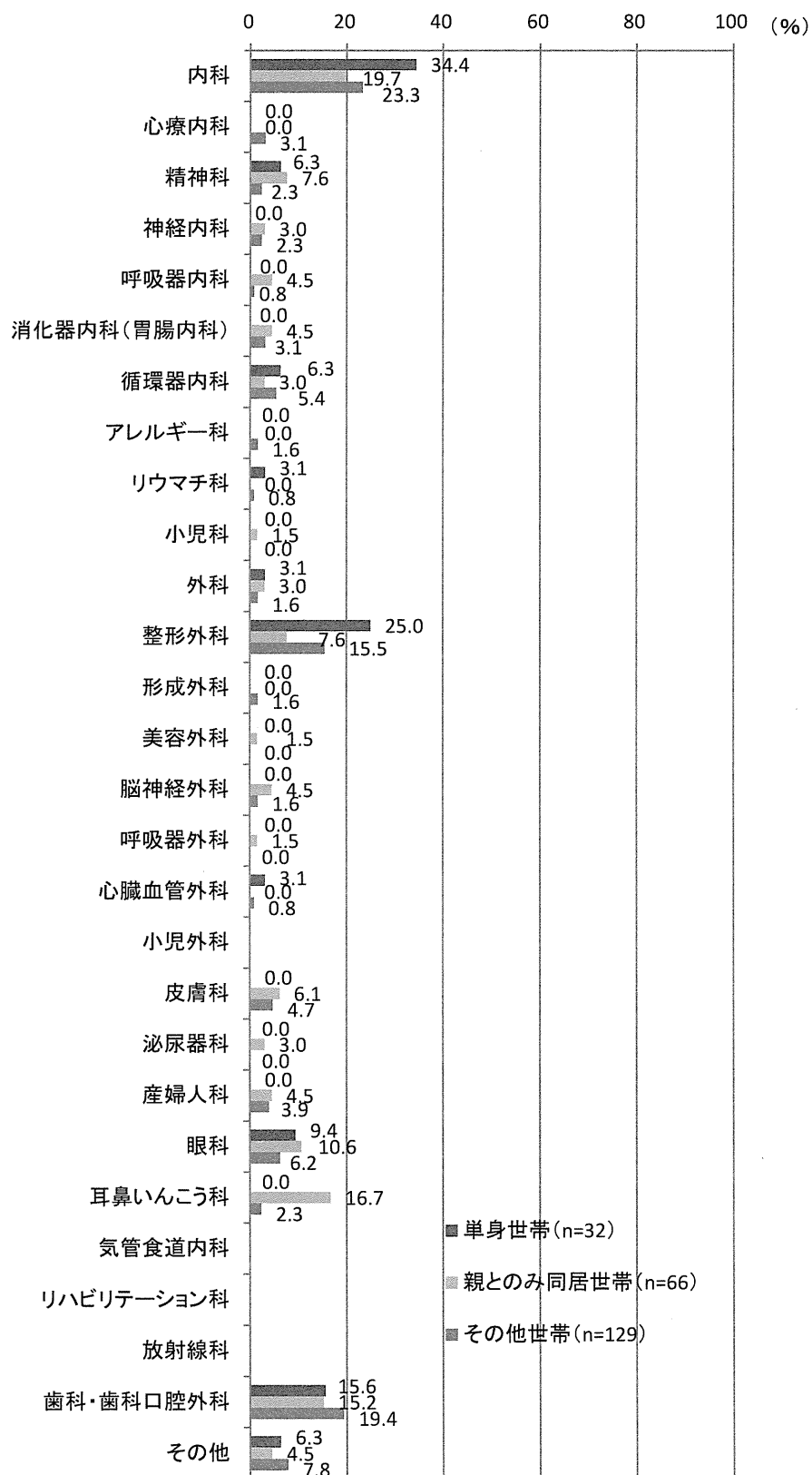


図表 93 定期的に通院している診療科目；性別（複数回答）

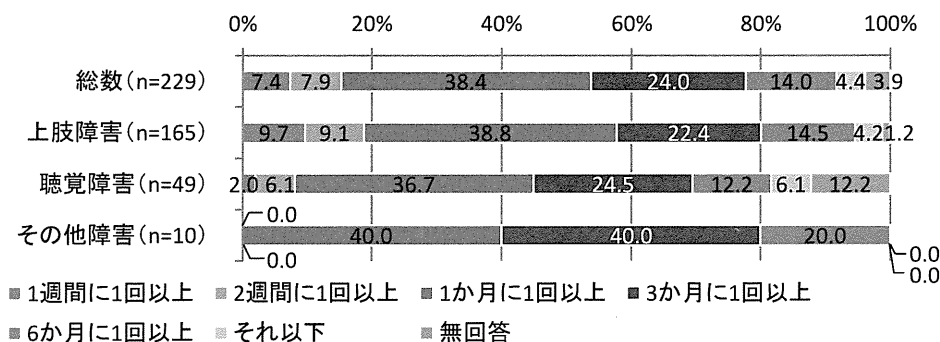


図表 94 定期的に通院している診療科目；世帯類型別（複数回答）

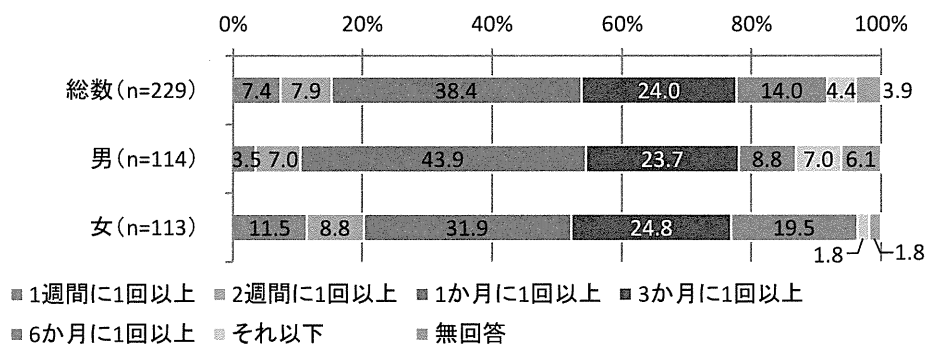


- 通院している頻度について、全体で見ると、「1ヶ月に1回以上」が38.4%と最も多く、次いで「3ヶ月に1回以上」が24.0%、「6ヶ月に1回以上」が14.0%である。
- 障害種別で見ると、上肢障害は「1ヶ月に1回以上」が38.8%と最も多く、次いで「3ヶ月に1回以上」が22.4%、「6ヶ月に1回以上」が14.5%である。聴覚障害は「1ヶ月に1回以上」が36.7%と最も多く、次いで「3ヶ月に1回以上」が24.5%、「6ヶ月に1回以上」が12.2%である。その他障害は「1ヶ月に1回以上」と「3ヶ月に1回以上」がそれぞれ40.0%と最も多く、「6ヶ月に1回以上」が20.0%である。
- 性別で見ると、男性は「1ヶ月に1回以上」が43.9%と最も多く、全体と比べてその割合が多くなっており、次いで「3ヶ月に1回以上」が23.7%、「6ヶ月に1回以上」が8.8%である。女性は「1ヶ月に1回以上」が31.9%と最も多いが、全体と比べるとその割合は少なくなっており、次いで「3ヶ月に1回以上」が24.8%、「6ヶ月に1回以上」が19.5%である。
- 世帯類型別で見ると、単身世帯は「1ヶ月に1回以上」が46.9%と最も多く、全体と比べてその割合が多くなっており、次いで「3ヶ月に1回以上」が18.8%、「6ヶ月に1回以上」が12.5%である。親とのみ同居世帯は「1ヶ月に1回以上」が39.4%と最も多く、次いで「3ヶ月に1回以上」が22.3%、「6ヶ月に1回以上」が12.1%である。その他世帯は「1ヶ月に1回以上」が36.4%と最も多く、次いで「3ヶ月に1回以上」が24.0%、「6ヶ月に1回以上」が15.5%である。

図表 95 通院頻度；障害種別

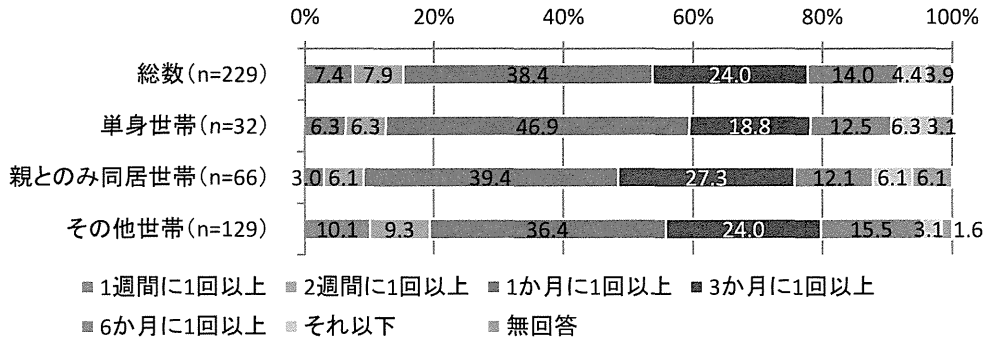


図表 96 通院頻度；性別



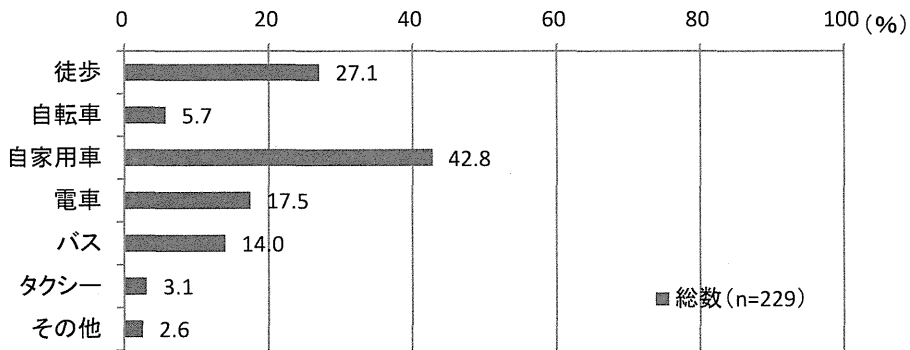
P<0.01 **

図表 97 通院頻度；世帯類型別

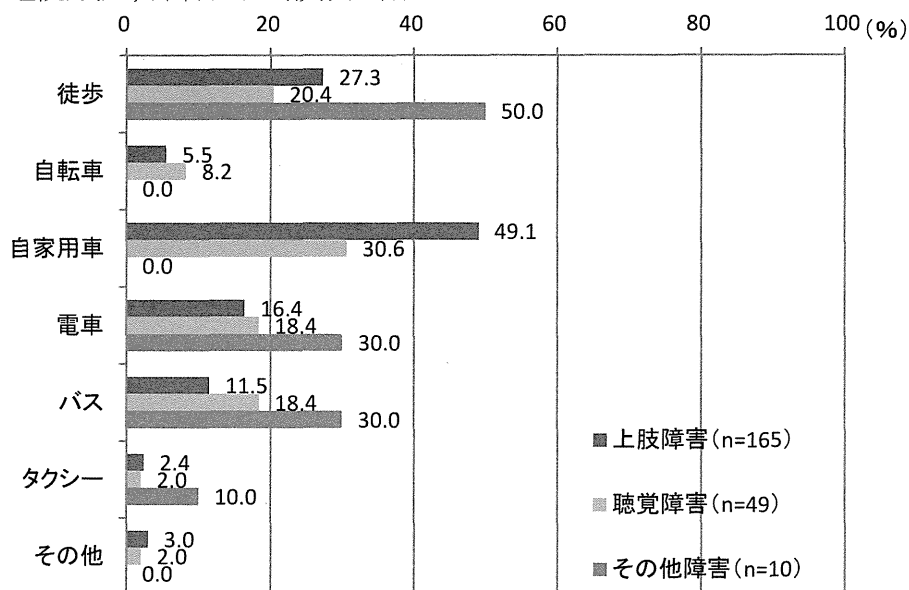


- 通院方法について、全体で見ると、「自家用車」が42.8%と最も多く、次いで「徒歩」が27.1%、「電車」が17.5%である。
- 障害種別で見ると、上肢障害は「自家用車」が49.1%と最も多く、次いで「徒歩」が27.3%、「電車」が16.4%である。聴覚障害は「自家用車」が30.6%と最も多く、次いで「徒歩」が20.4%、「電車」と「バス」がそれぞれ18.4%である。
- 性別で見ると、男性は「自家用車」が43.0%と最も多く、次いで「徒歩」が30.7%、「電車」が17.5%である。女性は「自家用車」が42.5%と最も多く、次いで「徒歩」が23.9%、「バス」が19.5%である。
- 世帯類型別で見ると、単身世帯は「徒歩」が34.4%と最も多く、次いで「自家用車」と「電車」がそれぞれ31.3%である。親とのみ同居世帯は「自家用車」が31.8%と最も多く、次いで「徒歩」が27.3%、「電車」が22.7%である。その他世帯は「自家用車」が51.9%と最も多く、次いで「徒歩」が25.6%、「バス」が12.4%である。

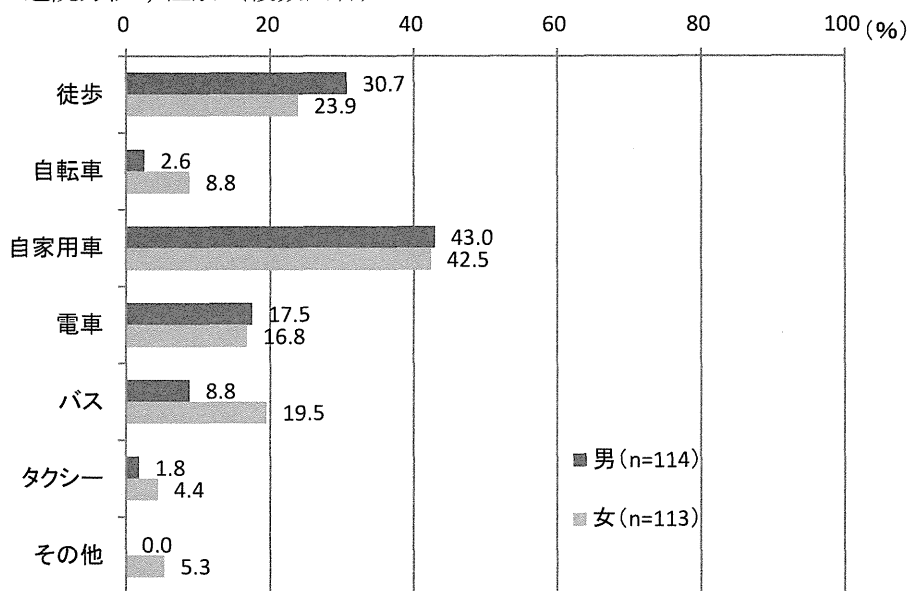
図表 98 通院方法；全体（複数回答）



図表 99 通院方法；障害種別（複数回答）

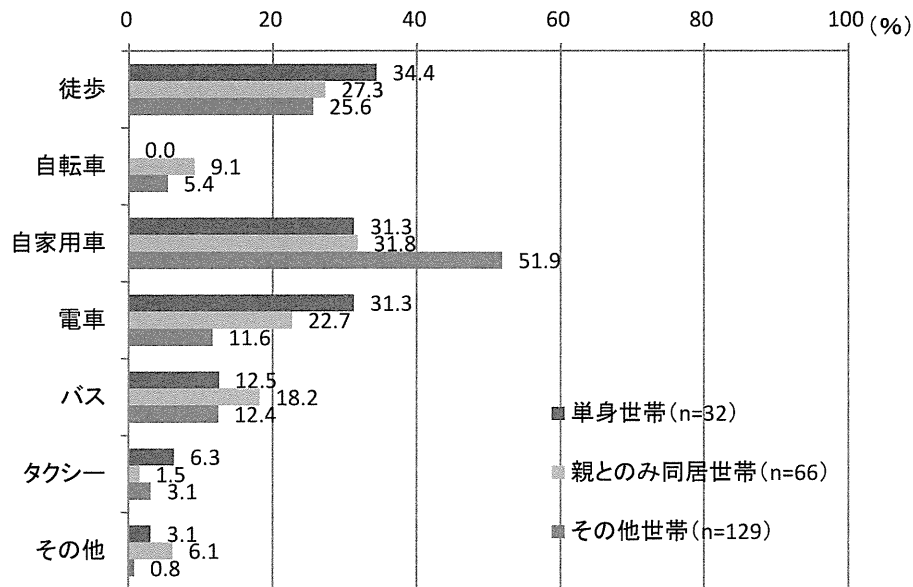


図表 100 通院方法；性別（複数回答）



P<0.05*

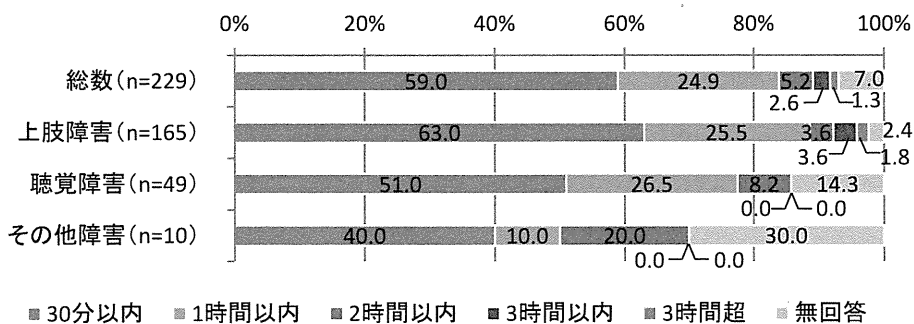
図表 101 通院方法；世帯類型別（複数回答）



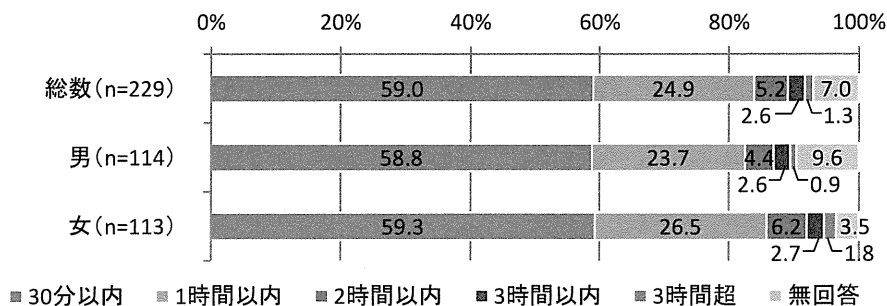
P<0.05*

- 通院にかかる時間について、全体で見ると、「30分以内」が59.0%と最も多く、次いで「1時間以内」が24.9%、「2時間以内」が5.2%である。
- 障害種別で見ると、上肢障害は「30分以内」が63.0%と最も多く、次いで「1時間以内」が25.5%である。聴覚障害は「30分以内」が51.0%と最も多く、次いで「1時間以内」が26.5%である。
- 性別で見ると、男性は「30分以内」が58.8%と最も多く、次いで「1時間以内」が23.7%である。女性は「30分以内」が59.3%と最も多く、次いで「1時間以内」が26.5%である。
- 世帯類型別で見ると、単身世帯は「30分以内」が53.1%と最も多く、次いで「1時間以内」が28.1%である。親とのみ同居世帯は「30分以内」が54.5%と最も多く、次いで「1時間以内」が19.7%である。その他世帯は「30分以内」が63.6%と最も多く、次いで「1時間以内」が27.1%である。

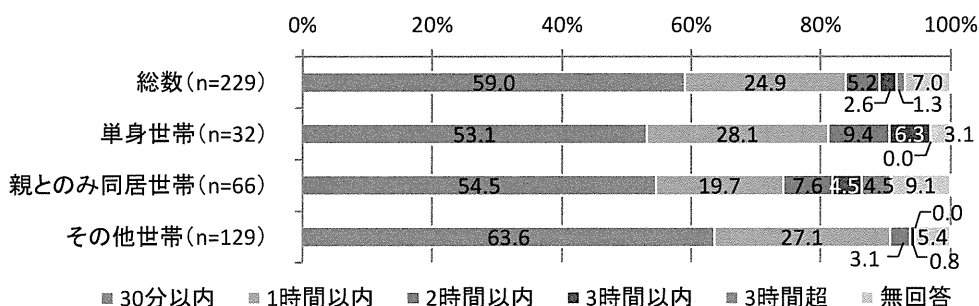
図表 102 通院にかかる時間；障害種別



図表 103 通院にかかる時間；性別

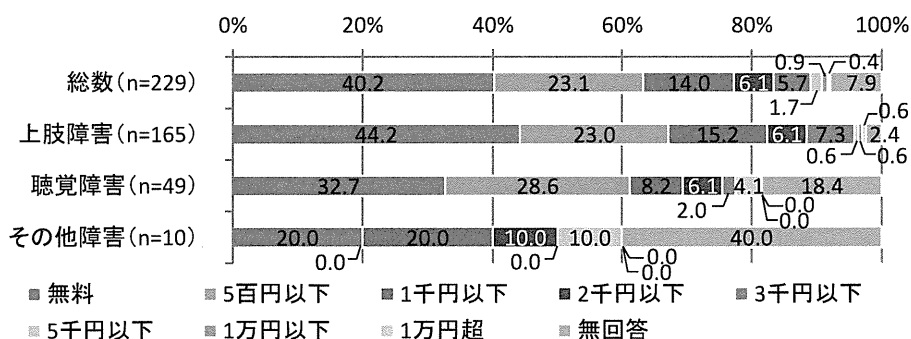


図表 104 通院にかかる時間；世帯類型別

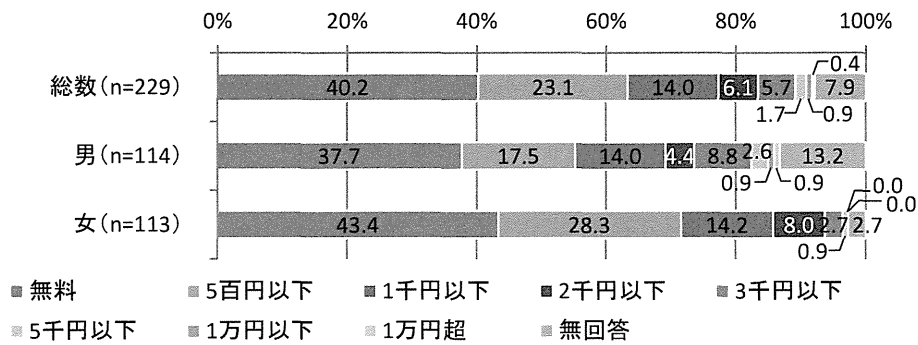


- 通院にかかる交通費について、全体で見ると、「無料」が40.2%と最も多く、次いで「500円以下」が23.1%、「1千円以下」が14.0%であり、1千円以下の費用がおよそ8割となっている。
- 障害種別で見ると、上肢障害は「無料」が44.2%と最も多く、次いで「500円以下」が23.0%、「1千円以下」が15.2%である。聴覚障害は「無料」が32.7%と最も多く、次いで「500円以下」が28.6%、「1千円以下」が8.2%である。
- 性別で見ると、男性は「無料」が37.7%と最も多く、次いで「500円以下」が17.5%、「1千円以下」が14.0%である。女性は「無料」が43.4%と最も多く、次いで「500円以下」が28.3%、「1千円以下」が14.2%である。
- 世帯類型別で見ると、単身世帯は「無料」が43.8%と最も多く、次いで「1千円以下」が18.8%、「500円以下」が15.6%である。親とのみ同居世帯は「無料」が31.8%と最も多く、次いで「500円以下」が25.8%、「1千円以下」が7.6%である。その他世帯は「無料」が44.2%、次いで「500円以下」が24.0%、「1千円以下」が16.3%である。

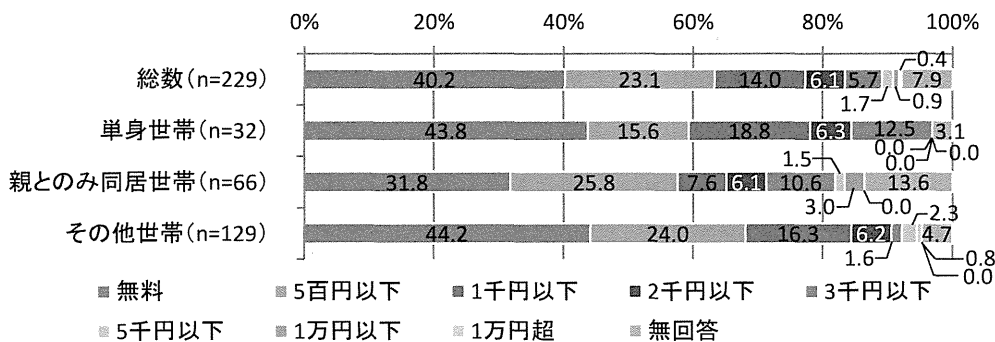
図表 105 通院にかかる交通費（片道）；障害種別



図表 106 通院にかかる交通費（片道）；性別

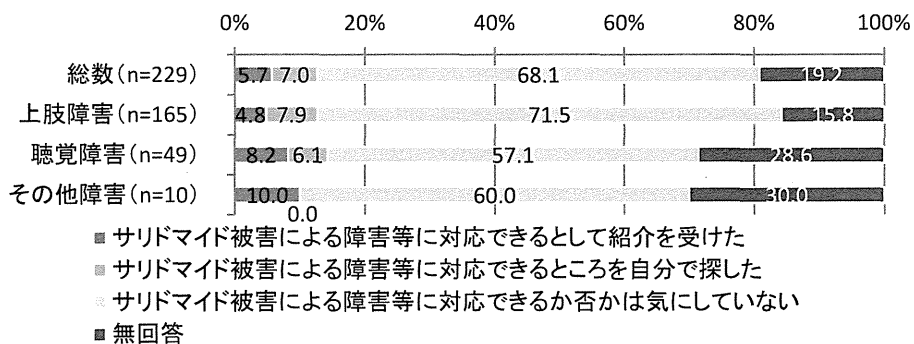


図表 107 通院にかかる交通費（片道）；世帯類型別

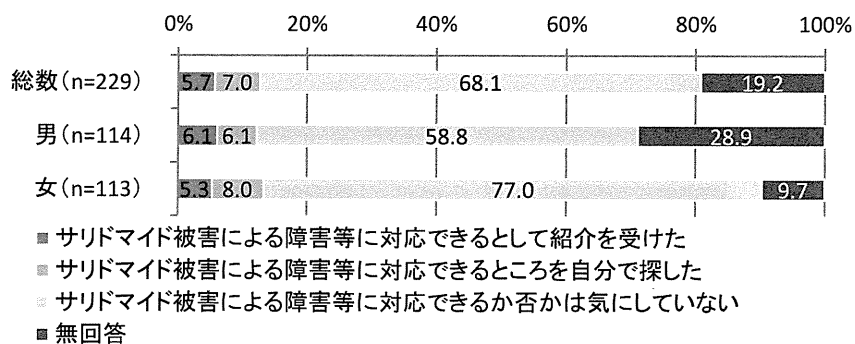


- その医療機関にかかったきっかけについて、全体で見ると、「サリドマイド被害による障害等に対応できるか否かは気にしていない」が68.1%と最も多く、無回答を除くおよそ8割を占めている。
- 障害種別で見ると、上肢障害も聴覚障害も「サリドマイド被害による障害等に対応できるか否かは気にしていない」が無回答を除くおよそ8割を占めている。
- 性別で見ると、男性も女性も「サリドマイド被害による障害等に対応できるか否かは気にしていない」が無回答を除くおよそ8割を占めている。
- 世帯類型別で見ると、すべての世帯類型で「サリドマイド被害による障害等に対応できるか否かは気にしていない」が無回答を除くおよそ8割を占めている。

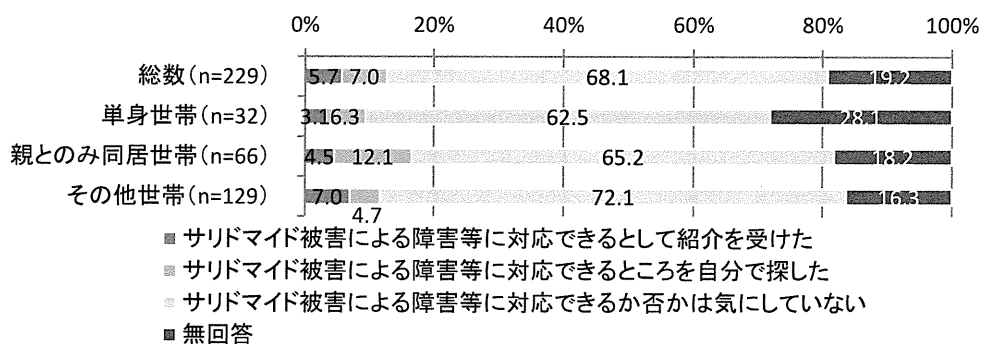
図表 108 その医療機関にかかったきっかけ；障害種別



図表 109 その医療機関にかかったきっかけ；性別



図表 110 その医療機関にかかったきっかけ；世帯類型別



(3) この1年間の受診状況

問 3 おおむねこの1年間の医療機関への受診状況について記入してください（○はいくつでも）。

※健診等（健康診断、健康診査及び人間ドック）による受診は除いてください。

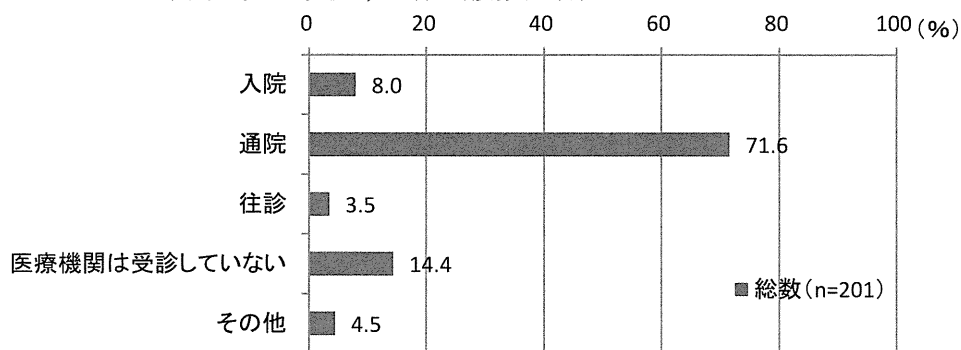
○おおむねこの1年間の医療機関への受診状況について、全体で見ると、「通院」が71.6%と最も多く、次いで「医療機関は受診していない」が14.4%、「入院」が8%である。

○障害種別で見ると、上肢障害は「通院」が72.7%と最も多く、次いで「医療機関は受診していない」が16.2%、「入院」が6.5%である。聴覚障害は「通院」が68.6%と最も多く、次いで「入院」と「その他」がそれぞれ11.4%である。その他障害も「通院」が72.7%と最も多く、次いで「医療機関は受診していない」と「その他」がそれぞれ16.7%である。

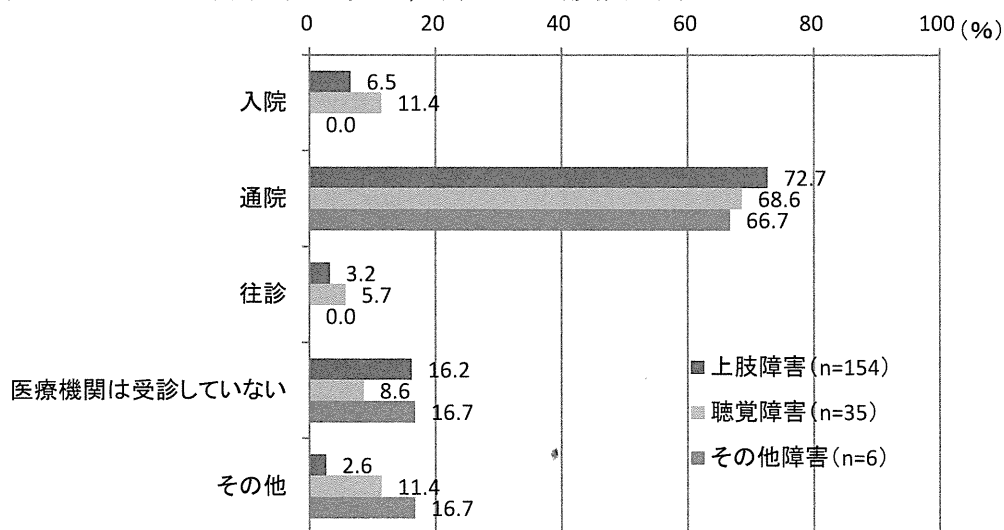
○性別で見ると、男性は「通院」が69%と最も多く、次いで「医療機関は受診していない」が17%、「入院」が10%である。女性は「通院」が74.7%と最も多く、次いで「医療機関は受診していない」が12.1%、「その他」が7.1%である。

○世帯類型別で見ると、単身世帯は「通院」が63.3%と最も多く、次いで「医療機関は受診していない」が16.7%である。親とのみ同居世帯は「通院」が73.3%と最も多く、次いで「入院」が13.3%、「医療機関は受診していない」が8.9%である。その他世帯は「通院」が73.4%と最も多く、次いで「医療機関は受診していない」が16.1%、「入院」が5.6%である。

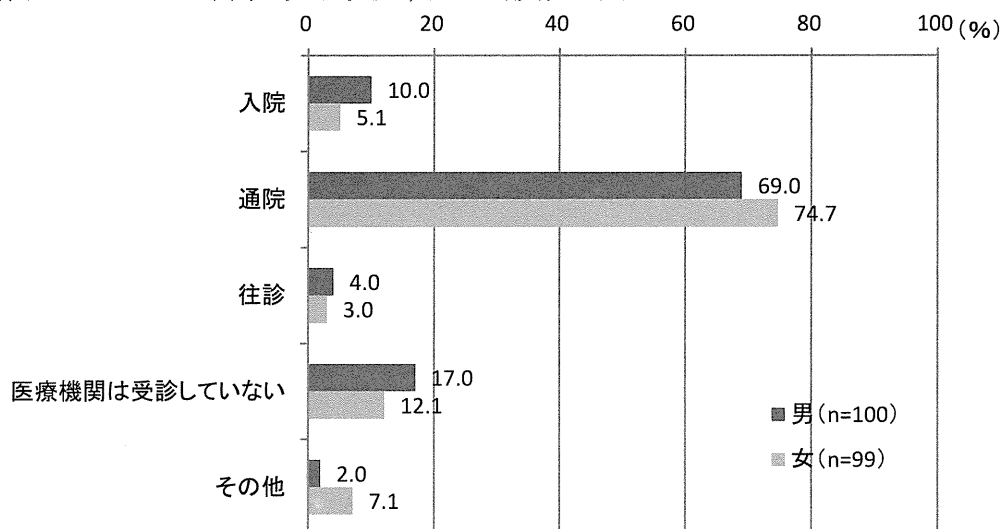
図表 111 この1年間の受診状況；全体（複数回答）



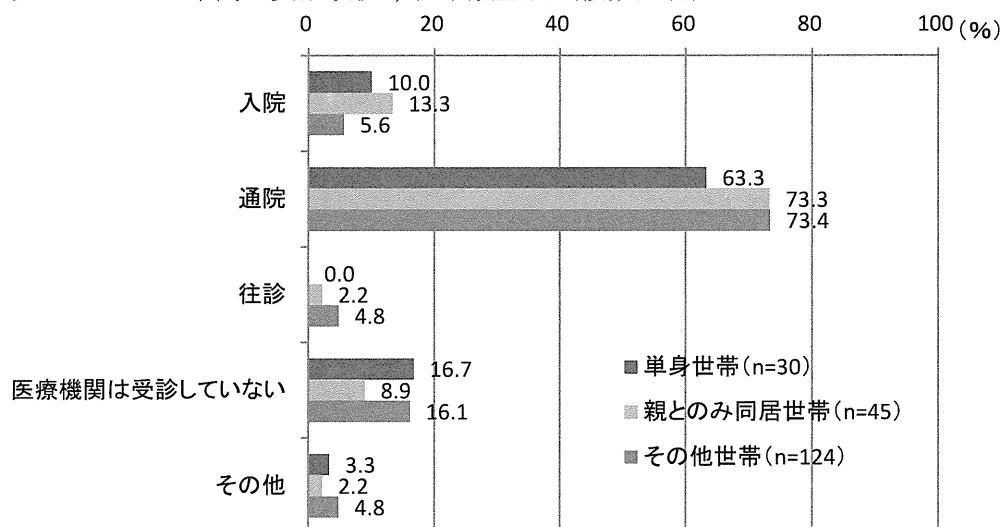
図表 112 この1年間の受診状況；障害種別（複数回答）



図表 113 この1年間の受診状況；性別（複数回答）

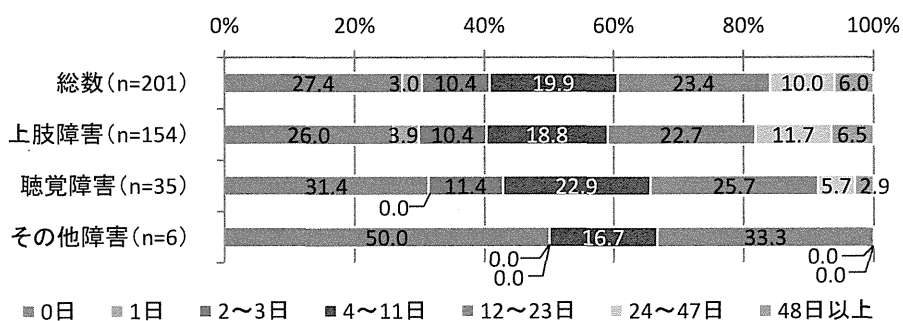


図表 114 この1年間の受診状況；世帯類型別（複数回答）

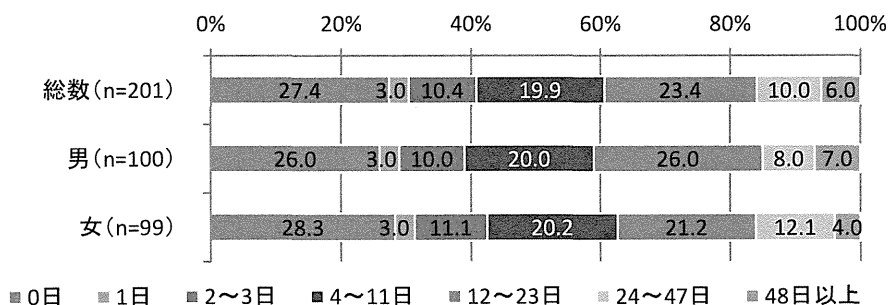


- 1年間の受診日数について、全体を見ると、「0日」が27.4%と最も多く、次いで「12～23日」が23.4%、「4～11日」が19.9%である。
- 障害種別で見ると、上肢障害は「0日」が26.0%と最も多く、次いで「12～23日」が22.7%、「4～11日」が18.8%である。聴覚障害は「0日」が31.4%と最も多く、次いで「12～23日」が25.7%、「4～11日」が22.9%である。その他障害は「0日」が50.0%と最も多く、次いで「12～23日」が33.3%、「4～11日」が16.7%である。
- 性別で見ると、男性は「0日」と「12～23日」がそれぞれ26.0%と最も多く、次いで「4～11日」が20.0%である。女性は「0日」が28.3%と最も多く、次いで「12～23日」が21.2%、「4～11日」が20.2%である。
- 世帯類型別で見ると、単身世帯は「0日」が33.3%と最も多く、次いで「4～11日」と「12～23日」がそれぞれ20.0%である。親とのみ同居世帯は「0日」と「4～11日」がそれぞれ24.4%、次いで「12～23日」が20.0%である。その他世帯は「0日」が26.6%、次いで「12～23日」が25.8%、「4～11日」が17.7%である。

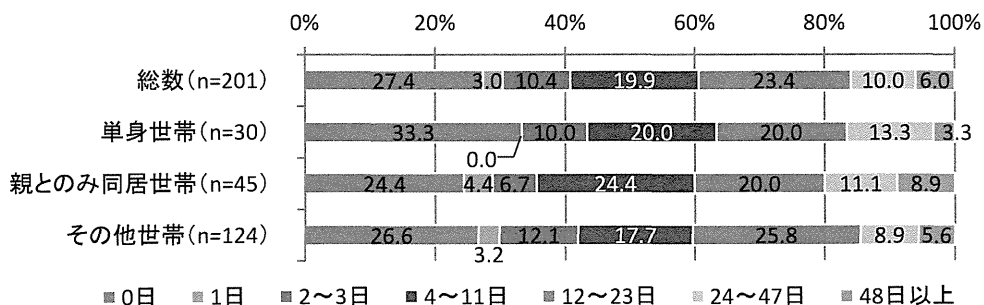
図表 115 この1年間の受診日数；障害種別



図表 116 この1年間の受診日数；性別



図表 117 この1年間の受診日数；世帯類型別

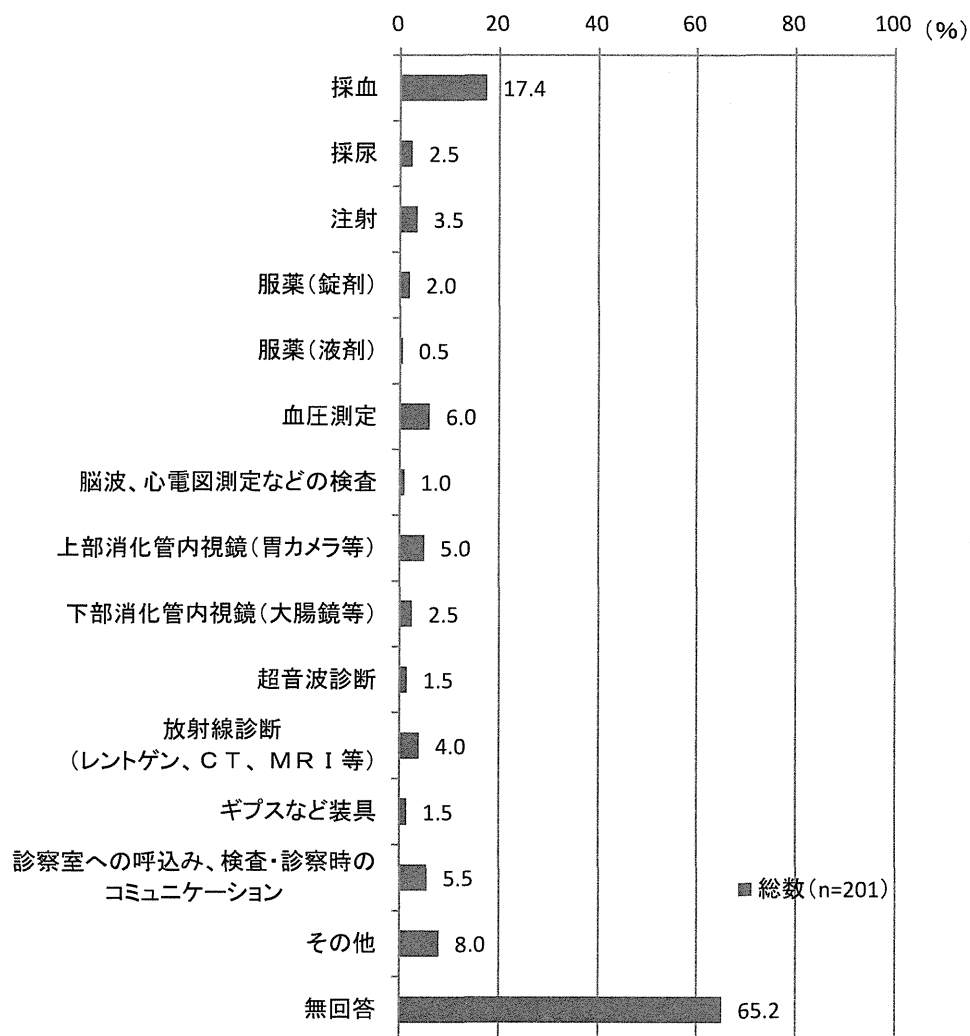


(4) 受診する上で困ること・できないこと

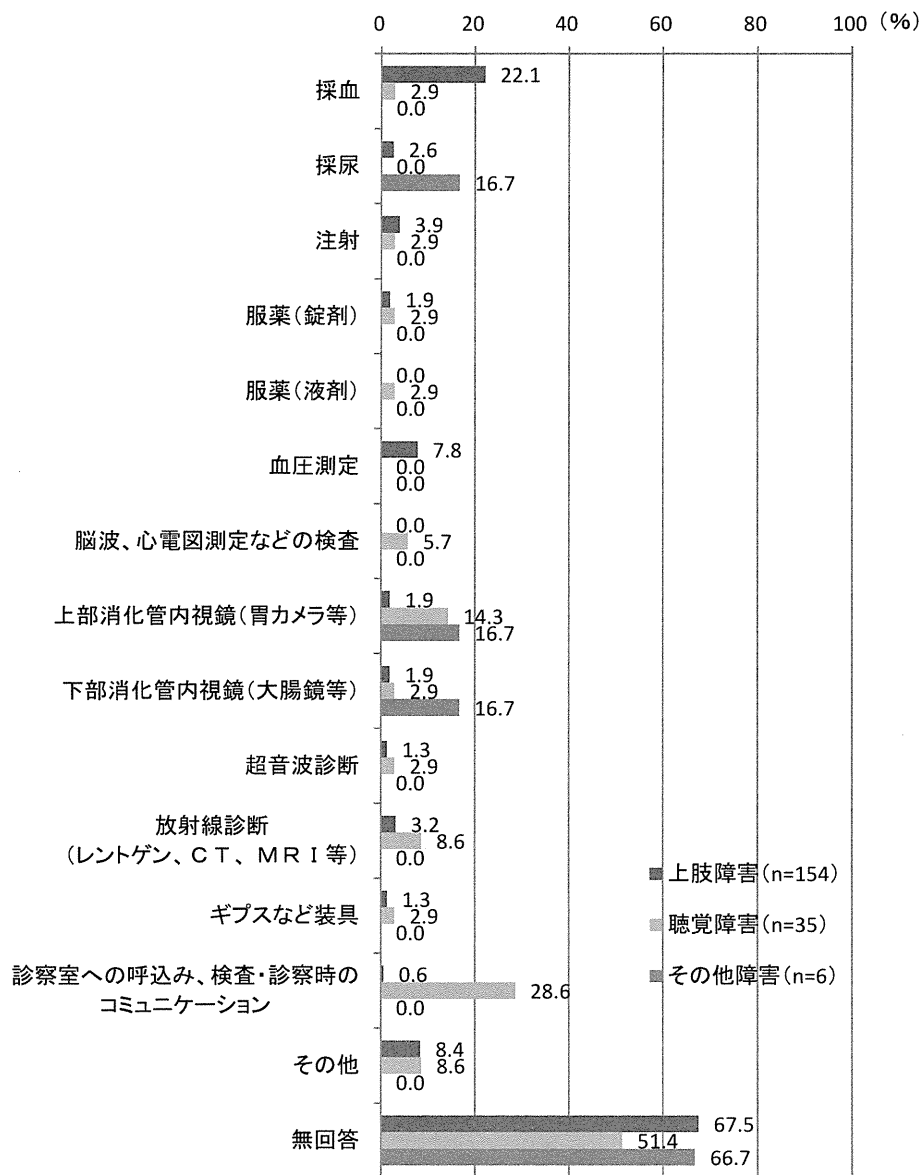
問4 あなたが現在、病院や診療所を受診する上で困ったり、できなかつたりすることがあれば、記入してください。(〇はいくつでも)
 ※健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)による受診は除いてください。

- 現在、病院や診療所を受診する上で困ったり、できなかつたりすることについて、全体で見ると、「採血」が17.4%と最も多く、次いで「その他」が8.0%である。
- 障害種別で見ると、上肢障害は「採血」が22.1%と最も多く、次いで「その他」が8.4%、「血圧測定」が7.8%である。聴覚障害は「診察室への呼び込み、検査・診察時のコミュニケーション」が28.6%と最も多く、次いで「上部消化管内視鏡(胃カメラ等)」が14.3%、「放射線診断(レントゲン、CT、MRI等)」と「その他」が8.6%である。
- 性別で見ると、男性は「採血」が14.0%と最も多く、次いで「診察室への呼び込み、検査・診察時のコミュニケーション」と「その他」がそれぞれ6.0%である。女性は「採血」が20.2%と最も多く、次いで「血圧測定」と「その他」がそれぞれ10.1%である。
- 世帯類型別で見ると、単身世帯は「採血」が20.0%と最も多く、次いで「診察室への呼び込み、検査・診察時のコミュニケーション」が6.7%である。親とのみ同居世帯は「採血」が22.2%と最も多く、次いで「上部消化管内視鏡(胃カメラ等)」と「その他」がそれぞれ13.3%である。その他世帯は「採血」が15.3%と最も多く、次いで「その他」が7.3%、「血圧測定」が5.6%である。

図表 118 受診する上で困ること・できないこと；全体(複数回答)

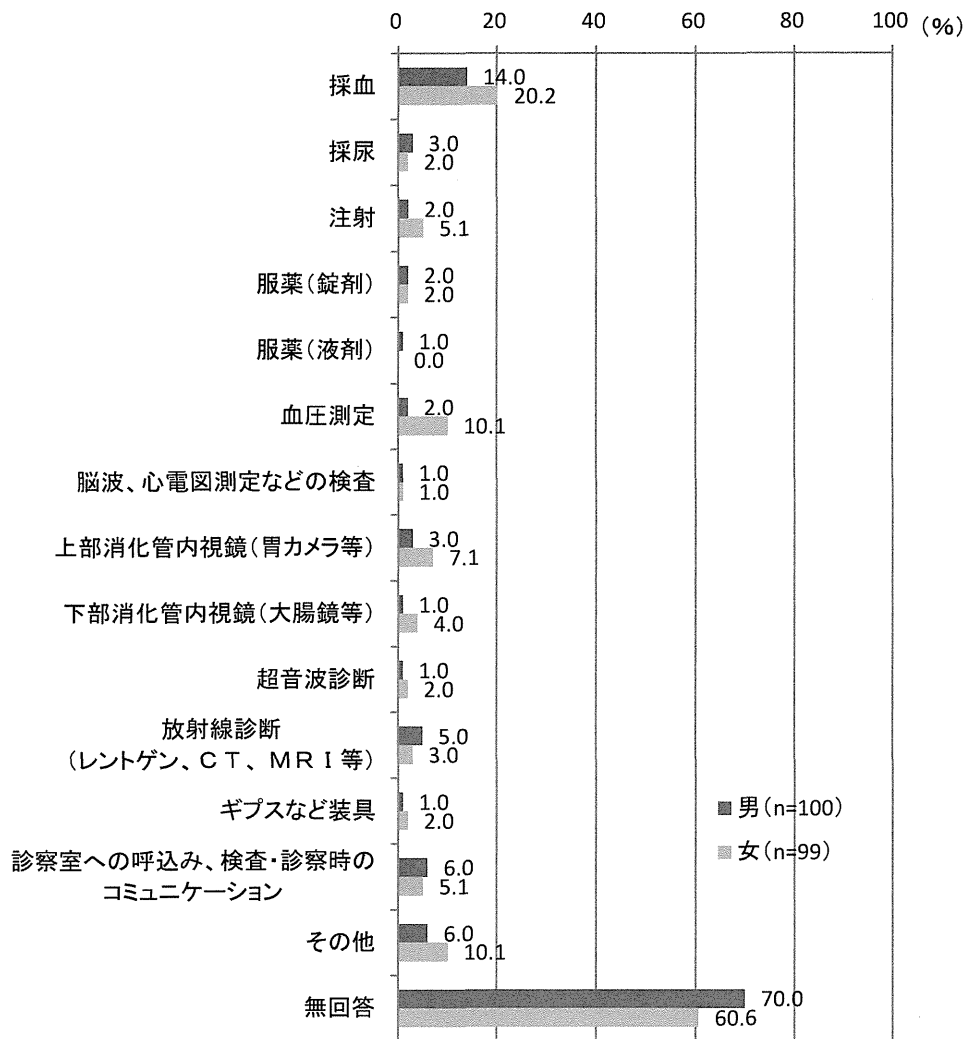


図表 119 受診する上で困ること・できないこと；障害種別（複数回答）

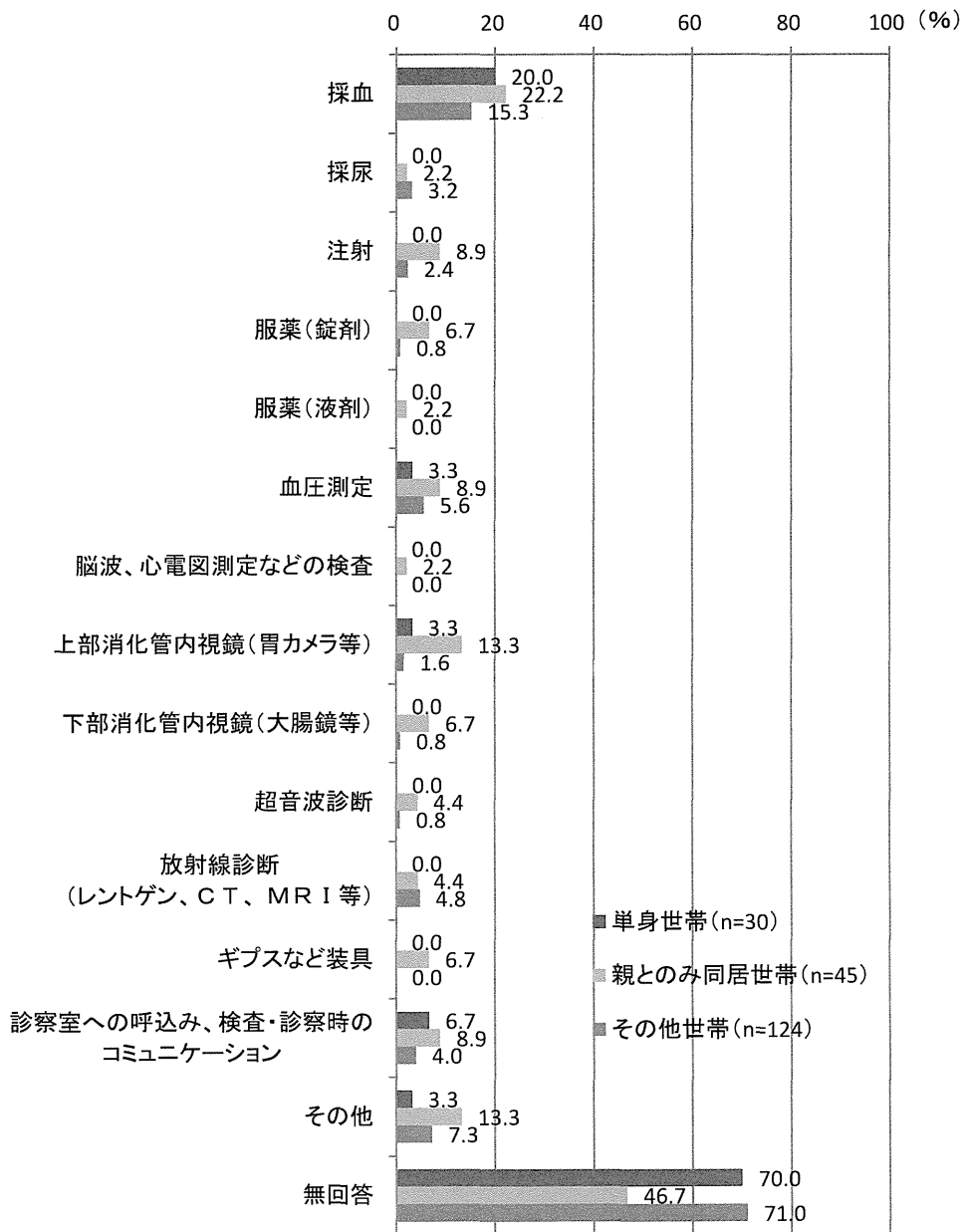


P<0.01**

図表 120 受診する上で困ること・できないこと；性別（複数回答）



図表 121 受診する上で困ること・できないこと；世帯類型別（複数回答）



図表 122 受診する上で困ること・できないこと ; 14. その他

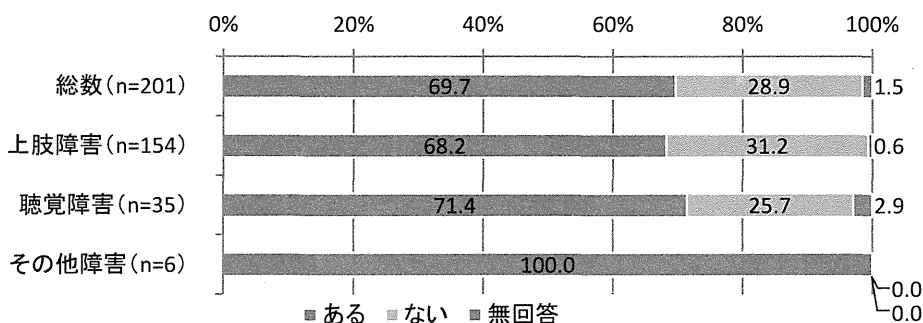
・点滴
・診察時（レントゲンなど）の服の脱着
・採血に時間がかかる（看護師による）
・人の手がないと下着の上げ下げなどが出来ず、一人では尿をとることが出来ません。
・両手が短い為、動脈硬化等を調べる機械がつけられませんでした。
・病院内に手話が出来る看護婦が居ないことで、コミュニケーションが難しく母親が付き添う。
・脈拍、点滴、血圧が手用しかなく出来ない。
・バリウムを飲んで胃の検査をするのを健康診断で申し込んだら両手で掴まれないと危ないのでと断られた。
・点滴、麻酔
・1 採血と 6 血圧測定は時々難しいが出来る。
・11 放射線診断はMR I が以前からパニック障害があり難しい。
・全国の市町村によってサービスが違うので不満がある。
・血管が出にくい体質らしく、いつも採血に手間取られることが多いです。

(5) 健診等の受診状況

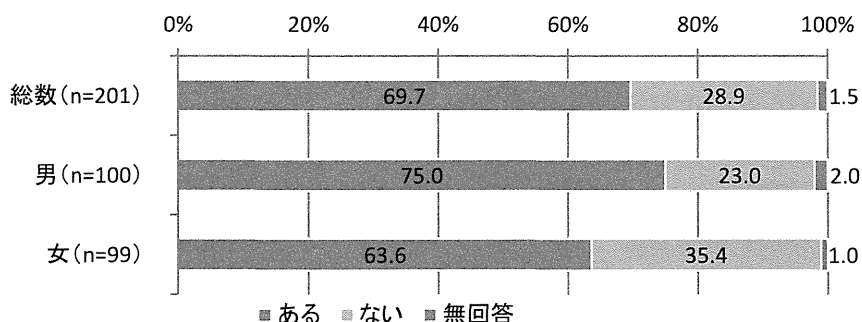
問 5 あなたはおおむねこの1年の間に、健診等（健康診断、健康診査及び人間ドック）を受けたことがありますか。
 ※がんのみの検診、妊産婦検診、歯の健康診査、病院や診療所で行う診療としての検査は健診等には含まれません。

- おおむねこの1年の間に健診等を受けたことがあるかについて、全体で見ると、69.7%が「ある」と答えている。
- 障害種別で見ると、上肢障害は68.2%、聴覚障害は71.4%が「ある」と答えている。
- 性別で見ると、男性は75.0%、女性は63.6%が「ある」と答えており、男性の方が受診率が高くなっている。
- 世帯類型別で見ると、単身世帯は76.7%、親とのみ同居世帯は60.0%、その他世帯は71.0%が「ある」と答えており、親とのみ同居世帯の受診率がやや低くなっている。

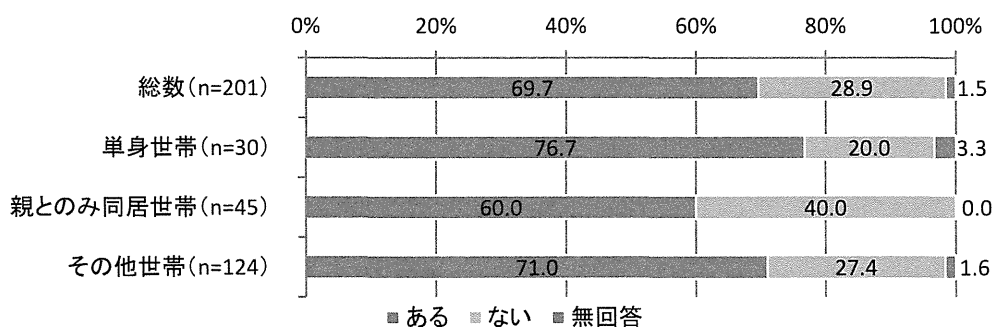
図表 123 健診等の受診状況；障害種別



図表 124 健診等の受診状況；性別



図表 125 健診等の受診状況；世帯類型別



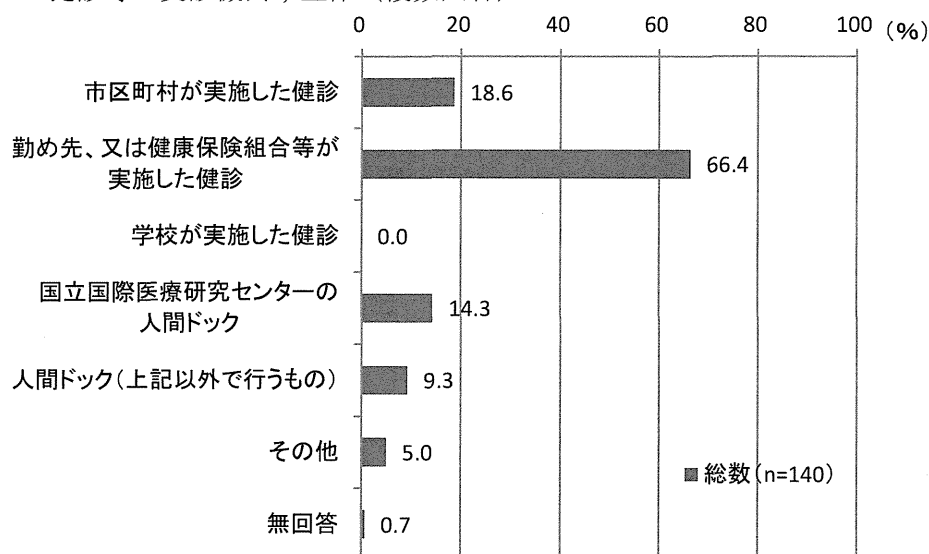
①どのような機会に健診を受けたか

【「1ある」と答えた方にうかがいます。】

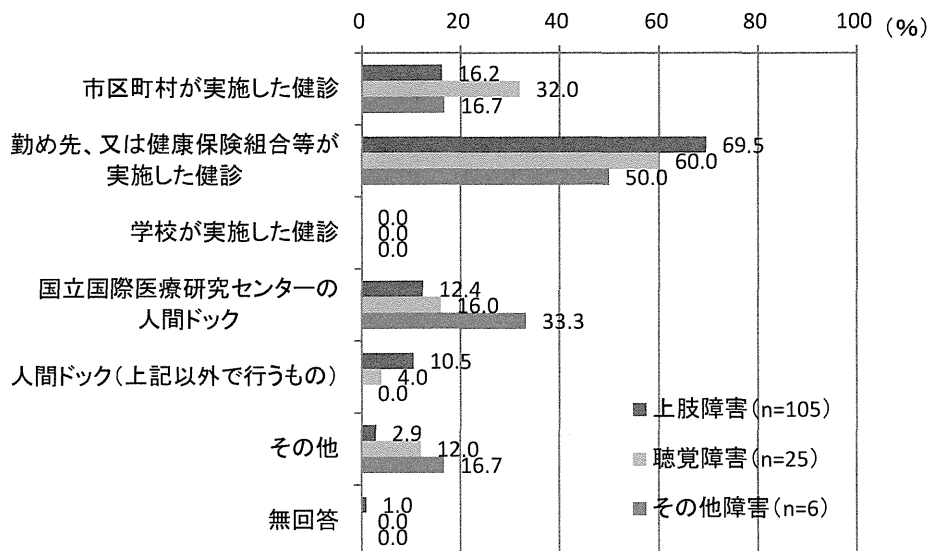
(1) どのような機会に健診等を受けましたか (〇はいくつでも)。

- どのような機会に健診を受けたかについて、全体で見ると、「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」が 66.4%と最も多く、次いで「市区町村が実施した健診」が 18.6%、「国立国際医療研究センターの人間ドック」が 14.3%である。
- 障害種別で見ると、上肢障害は「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」が 69.5%と最も多く、次いで「市区町村が実施した健診」が 16.2%、「国立国際医療研究センターの人間ドック」が 12.4%である。聴覚障害は「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」が 60.0%と最も多く、次いで「市区町村が実施した健診」が 32.0%、「国立国際医療研究センターの人間ドック」が 16.0%である。その他障害は「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」が 50.0%と最も多く、次いで「国立国際医療研究センターの人間ドック」が 33.3%、「市区町村が実施した健診」と「その他」がそれぞれ 16.7%である。
- 性別で見ると、男性は「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」が 70.0%と最も多く、次いで「人間ドック（上記以外で行うもの）」が 12.0%、「市区町村が実施した健診」と「国立国際医療研究センターの人間ドック」がそれぞれ 10.7%である。女性は「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」が 58.7%と最も多いが、男性より割合は少なく、次いで「市区町村が実施した健診」が 28.6%、「国立国際医療研究センターの人間ドック」が 15.9%である。
- 世帯類型別で見ると、単身世帯は「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」が 73.9%と最も多く、次いで「市区町村が実施した健診」が 21.7%、「国立国際医療研究センターの人間ドック」が 8.7%である。親とのみ同居世帯は「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」が 63.0%と最も多く、次いで「国立国際医療研究センターの人間ドック」が 25.9%、「市区町村が実施した健診」が 14.8%である。その他世帯は「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」が 67.0%、次いで「市区町村が実施した健診」が 18.2%、「国立国際医療研究センターの人間ドック」が 11.4%である。

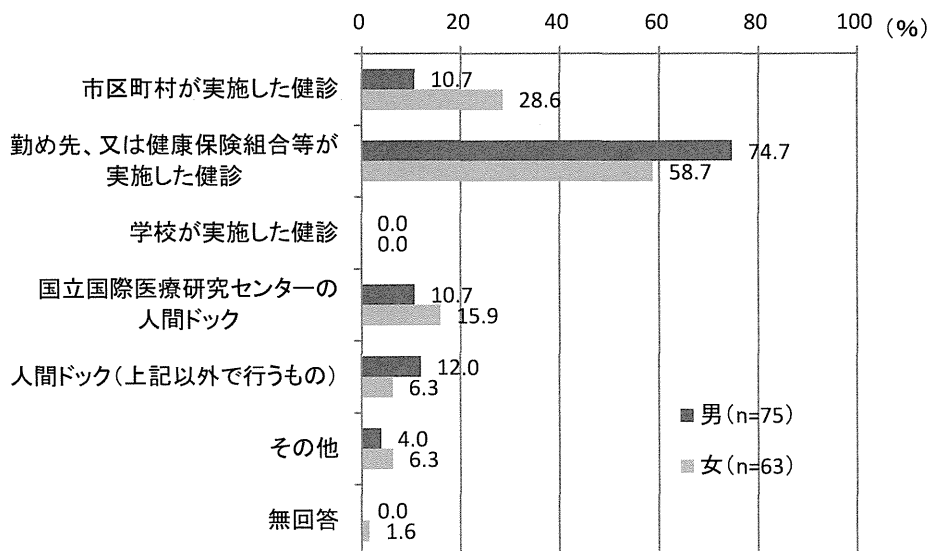
図表 126 健診等の受診機会；全体（複数回答）



図表 127 健診等の受診機会；障害種別（複数回答）



図表 128 健診等の受診機会；性別（複数回答）



図表 129 健診等の受診機会；世帯類型別（複数回答）

